

あけましておめでとうございます。祈りと賛美のうちに、新しい歩みが始まりました。神様の祝福が、兄弟姉妹に豊かにありますように、心よりお祈り申しあげます。

はるかに良くしてくださる

教会形成5ヶ年計画も、いよいよ最終年となりました。今年のテーマは、ズバリ「教会への奉仕と伝道」です。神の愛に心を開き、みことばを深く味わい、交わりによって恵みが充満することを体験してきました。昨年は伝道師を迎えて伝道師も迎えて、共に1年間主に仕えて来ました。スモールステップを積み重ねてきた教会の歩みは、5年前に比べて、はるかに力強く、より多くの兄弟姉妹に広がりました。受洗者、転入会者も与えられ、大きな修繕工事に向けて、尊い献金が捧げられています。

今朝のみ言葉が初めて与えられたのは、昨年の1月の教会指導者研修のセッションの中でした。ある先生が、東日本大震災で被災した方々に向けて、神の約束の言葉として与えられた聖句でした。それは「神様はあなたを（試練の前より）はるかに良くしてくださる」というビジョンでした。それはちょうど、深い淵の底にいるような人生だったサマリヤの女が、イエス様によって救い出され、命の水を得たというエピソードと同じだったというのです。

能登の震災からも1年が経過しましたが、現実には厳しく、簡単ではありません。しかし、神様の「はるかに良くしてくださる」という希望は、少しずつ動き始めています。このビジョンを握って、立ち上がっている人たちがいます。傷つき、痛みを負いながらも、その手足は力強く、眼差しは美しく、その存在は熱を帯びています。

神の国を建て上げる

教会の奉仕と、世間のボランティアは、よく混同されます。しかし大きな違いがあります。それは誰が主体性を持っているか、ということです。ボランティアは、本人の意思です。しかし、奉仕の主体は、その人の思いではなく、神の御心です。奉仕は、使命を与えられた主なる神様を、心の目で見つめつつ行う業なのです。

このみことばが二度目に与えられたのは、インド宣教旅行中で、韓国人宣教師アンカンヒ先生のメッセージからでした。神の御心の実現のためには、従うことが必要だと、力強く迫られたのです。そして、改めて自分勝手に想定していた「神様の御心」の小ささを打ち砕かれました。イエス様が、まばゆい栄光に包まれ、変貌の姿を弟子たちに表された記事があります。それは、人間同士が比べ合うような次元の、成果や功勞ではありませんでした。天国の喜びと賛美が、全てを包む祝福の世界でした。

私たちの奉仕は、この平和の作り手、ピースメーカーとして、仕えるということなのです。実際の私たちの肉体は小さく、生きている社会は傷と汚れが多いですが、ここに神の国の平和をもたらすために、私たちは奉仕に召されているのです。